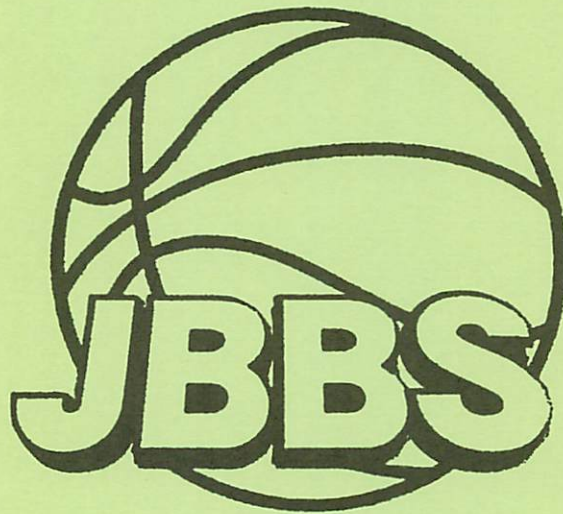


# バスケットボールプラザ

*Basketball Plaza*

*No:41*

---



2009年5月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



手にとった瞬間、キミは驚くはず。  
 その翼のような軽さとしなやかさに。  
 1gでも軽くするために、あらゆる素材を  
 厳選し構造を何度も検証し  
 そして遂に、軽量でありながら  
 優れたクッション性と包み込む  
 ようなフィット感を実現させた。

夢は必ず叶うと信じるための1足。

ウエーブホープネオ

希望という名の翼、新登場。

WAVE HOPE NEO



キミに翼を。



# 目 次

|                                                        |    |
|--------------------------------------------------------|----|
| ○ 理事会と定期総会を開催                                          | 3  |
| ○ 全国シニアバスケットボール交歓大会を開催                                 | 11 |
| ○ 近代バスケットの夜明け<br>ハワイAJAチームがもたらしたもの                     | 13 |
| ○ 図書紹介<br>ワンハンドショットのメッセンジャーたち                          | 15 |
| ○ UNDER GHQ<br>戦後混乱期のバスケットボール                          | 16 |
| ○ 会員だより<br>“憶れて” 私のバスケットボール 佐久間 高正                     | 18 |
| ○ JBL全日程終了                                             | 20 |
| ○ WJBLシーズン閉幕                                           | 24 |
| ○ bjリーグもファイナルで大詰めへ                                     | 27 |
| ○ 財団法人日本バスケットボール協会<br>平成21・22年度理事・監事決まる                | 29 |
| ○ 第1回東アジアバスケットボール選手権大会 兼<br>第25回FIBAアジア男子選手権大会東アジア地区予選 | 32 |
| ○ 男子日本代表候補選手の強化合宿続く                                    | 34 |
| ○ 女子日本代表チーム強化合宿開始                                      | 37 |
| ○ 日本協会平成21年度競技日程                                       | 39 |
| ○ 計報・追悼文                                               | 41 |
| ○ 事務局だより                                               | 44 |
| ○ 会員動向                                                 | 45 |
| ○ プラザこぼればなし                                            | 46 |

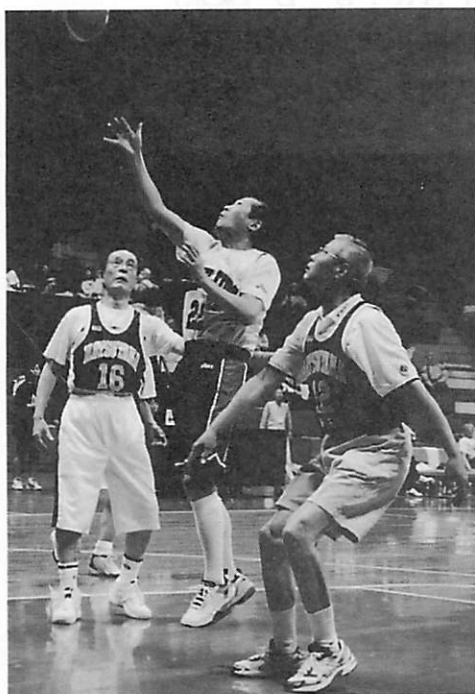
# 全国シニアバスケットボール交歓大会を開催

[普及部]

昨年が続いて、去る4月12日(日)2回目となる全国シニアバスケットボール交歓大会を振興会の主催により代々木第二体育館で開催。選手の出場資格は、男子60歳以上、女子50歳以上だが、東京、神奈川、千葉、埼玉などの選抜チームを含め、兵庫県から男子の「シルバーキッズ」、女子の「シルバーキッズレディース」、長野県から女子「長野クラブシニア」など男女それぞれ4チームが参加した。また、遠く熊本県から個人で参加された方もいて、参加者総数は120名を超えた。



バスケットボールの殿堂とも云える代々木第二体育館での開催とあって、高年齢にもかかわらず随所でハッスルプレイが出たが、心配された怪我人も皆無で各チームが6分クォーターの試合を2ゲームずつ、また、68歳以上の方を対象としたチームを作り8分ハーフでそれぞれプレイを楽しんだ。



大会には、振興会から会員でもある元オリンピック選手の諸山文彦氏や結城昭二氏も参加、往年のプレイを彷彿させる活躍をして会場の皆さんに喜ばれた。

この大会は、振興会が高齢者の健康増進と生涯バスケットを目的として、埼玉実連が主催していたシニア大会をベースにして昨年から開催しているが、次年度からは参加者の急増に対して、振興会会員を優先するなど何らかの工夫が必要になりそうである。

参加者は高齢とはいえ、平素練習に励んでいる方が殆どで、速攻も出るなど随所にナイスプレイが続出した。

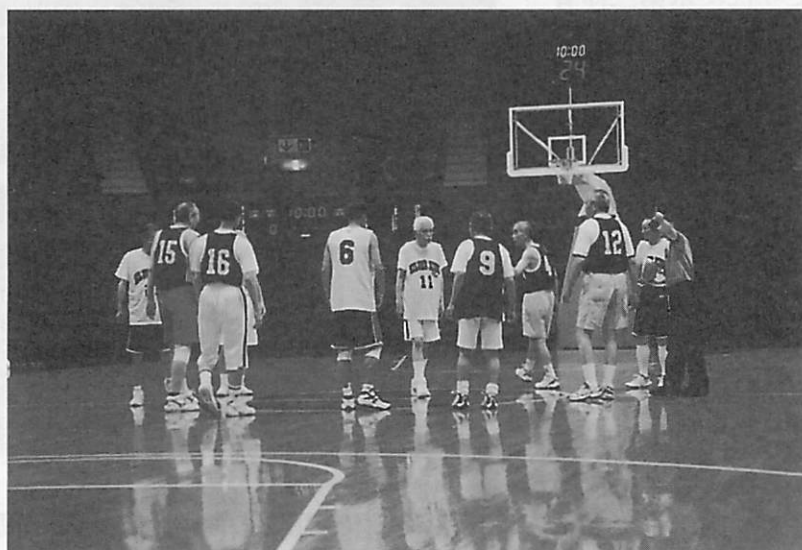
高齢者ということで男女共6号ボールを採用したが、男子にとってはこれが物足りなかったようで、「シュートが入らないのはボールのせい」とのこぼしも。

大会終了後に開催された懇親会には70名を超す方々が参加、元日本鉱業の志賀選手や、元松下電器の天磨選手の顔も見られ、来年の元気な再会を誓いあった。

# [大会の結果]

## 男子

|               |    |   |    |               |
|---------------|----|---|----|---------------|
| 埼玉選抜          | 8  | — | 21 | 神奈川選抜         |
| COKICOKI (千葉) | 39 | — | 16 | シルバーキッズ (兵庫)  |
| 神奈川選抜         | 26 | — | 32 | COKICOKI (千葉) |
| シルバーキッズ (兵庫)  | 25 | — | 32 | 埼玉選抜          |



## 女子

|                   |    |   |    |                   |
|-------------------|----|---|----|-------------------|
| 入間テンダース (埼玉)      | 47 | — | 21 | シルバーキッズレディース (兵庫) |
| 長野クラブシニア (長野)     | 11 | — | 30 | PARIS-D (東京)      |
| シルバーキッズレディース (兵庫) | 15 | — | 26 | 長野クラブシニア (長野)     |
| PARIS-D (東京)      | 17 | — | 17 | 入間テンダース (埼玉)      |

以上



# 近代バスケットの夜明け

## ～ ハワイ A J A チームがもたらしたもの ～

[歴史部]

昭和16年(1941)12月、日本軍によるハワイ・真珠湾への奇襲攻撃が太平洋戦争の幕開けであったことは詳述するまでもない。アメリカの強さを思い知らされ、4年後の8月15日に玉音放送をもってその幕が下ろされたことも、ダグラス・マッカーサー率いる連合国軍総司令部が日本に乗り込んできたことも、周知のとおりである。

スポーツ界に目を向けると、中断されていたプロ野球が「プレイボール」や「ストライク」のコール(戦中は敵性語として禁止されていた)とともに復活した。そんな中、実はバスケットボールも野球に劣らず注目を集めたことがある。確かに、終戦後間もなく大学界がバスケットの復興に力を注いだという事実はあるが、プロ野球と肩を並べるほど注目されるというのは実に興味深く、現在のバスケット事情を考えると驚きでもある。その時、日本のバスケット界に何があったのか……。

太平洋戦争当時、日本のスポーツは当然ながら停滞状態にあった。野球やテニスなどが敵国スポーツとして次々に中止され、大学を中心に盛んだったバスケットも昭和19年(1944)、ついにすべての活動がストップ。選手たちはそれ以前に既に学徒出陣で出征していてバスケットどころではなく、活動停止の事実すら知らない者が多かったようだ。

終戦後バスケットは、いち早く学連所属の大学を中心に活動を再開した。その背景には、日本の民主化の一環としてスポーツ振興が掲げられたということがあった。アメリカが連合国軍の軸をなしているだけに、そのアメリカを発祥とする野球やバスケットの活動再開が他の競技に先駆けて行われたのは必然だったのかもしれない。特にバスケットの場合、進駐軍でもあるアメリカ人の影響があったであろうことは容易に想像がつく。

そして昭和25年(1950)には、ハワイに住む日系二世で構成されたハワイ A J A (Athletic Japanese Association) チームが来日して、全日本学生チームなどと計8試合を戦った。この年はプロ野球も2リーグ制移行という大きな転機を迎えた年だったのだが、当時のマスメディアはこの2つのニュースを同等の扱いで報じたという。

さらに当時の報道によれば、トップスターの田中絹代がハワイ A J A チームを宴席に招待したり、大阪駅では彼らの到着を歓迎する多くのバスケット関係者や報道陣に取り囲まれたりと、日本国中の関心を集めた出来事だったようだ。それほど、当時のバスケットはメジャースポーツだったのである。

しかしながら、日本のバスケットが国際的に見てレベルが高かったから注目を浴びたというわけではない。前述したように、バスケットのレベル云々ではなくただ認知度が高かったということにすぎず、むしろこのハワイ A J A チーム来日が日本のレベルアップを促す契機になっている。

競技そのものは盛んだったものの、時代背景的に国際交流という面では恵まれておらず、戦前は五輪出場以外では海外チームの来日が3回ほどあったのみ。海外のレベルの高いスキルや戦術がもたらされたのは、このハワイA J A来日時が初めてと言っていいだろう。巧みなドリブル、正確なショルダーパス、そしてワンハンドショット……彼らが見せた技術は、当時の日本から見れば革新的なものだった。特に、中心選手であった“ハロルド当銘”と“ウォレス当銘”の兄弟は、確率の高いワンハンドショットに加え、パフォーマンス的な要素も含んだボールさばきで会場を沸かせたという。

対する日本側は、寄せ集めの選抜チームよりも既存の単独チームのほうが健闘し、神戸学士クラブがわずか2点差で破れるなど、競った試合もあった。資料を見る限りでは、身体の大きさに劣っていたわけではなく、むしろ日本のほうが身長の高い選手が多いくらいである。だが、日本の選手はボールから目を離してドリブルできないなど、スキル面の差は歴然。ハワイA J Aの8戦全勝という結果に終わった。各地を転戦する間に、両チームを交えた討論会が行われたこともあり、そこで日本はやはり基礎技術についてハワイ側から数多くの指摘を受けたということだ。そして、連戦の間には遠征先でクリニックも開かれ、彼らの技術・戦術が日本の選手・コーチに直接伝えられた。

試合に出場した選手たちの中には、ハワイA J Aとの対戦よりも、むしろ進駐軍と何度も試合をした経験がレベルアップにつながったと感じている人が少なくない。しかし、当時の日本にとってハワイA J Aが見せた数々のスキルはそのどれもが目新しく、60年弱の時を経た今では基本中の基本とみなされている。そのことを考えると、彼らがそのルーツである日本に残していったものは非常に価値があり、彼らの貢献度は高い。ハワイA J Aとの8試合が、日本バスケット近代化への第一歩になったと言っても過言ではないだろう。日本はまたもアメリカの強さを思い知らされた。終戦から5年、バスケットという狭いながらも国際的なステージにおいて、日本は再び後の発展への転換期に立ったのである。

今や技術面の輸入は情報網の発達等で容易になり、日本で知られていない技術はどこを探してもほとんど見つからないだろう。にもかかわらず、ここ数年のナショナルチームの成績は右肩下がりだ。ハワイA J Aと戦ったかつての名選手たちも「ロンドン五輪に出場できる可能性は少ないんじゃないか」「協会の方針が見えない」と行く末に不安を抱いている。

日本はハワイA J Aと戦って、個人技術と同時に日本に必要な戦術やチーム強化のあり方なども学んだはずなのだが、それらは何度かの世代交代の中でいつの間にか忘れ去られてしまった。

今こそ原点に立ち帰り、これから日本が進むべき道を再び見出していかなければならない。ハワイA J Aと戦ったあの時代に、そのヒントが必ずあるはずだ。

(構成・吉川哲彦)

## 図書紹介

# 「ワンハンドショットのメッセンジャーたち」

——バスケットボールにおける社会史的研究——

[歴史部]

現代のバスケットボール愛好者たちにとって、“シューティング”は最も興味と関心を集中させる技術であろうが、中でも“片手のショット”はごく当たり前の基本技として習慣づけられ、今や男女とも何の疑いもなくその全盛期を迎えている。

だが、ここに至るまでには主として“両手のショット”で育った、いわば戦前派の人たちが、戦後5年目ごろから“ワンハンドショット”に目覚め、切り替えの努力を重ねて結果を出してきた、半世紀余りの歴史があったことを忘れてはなるまい。

その最大の契機となったイベントこそが、昭和25年(1950)3月、“戦後初の国際試合”という名のもとに、幅広く世間の耳目を集めて開催された“日米バスケットボール親善大会”にほかならない。

この図書の著者は、この対「ハワイA J Aオールスターチーム」戦を主題としてとらえながら、この親善大会の諸経緯、試合内容の分析評価、当時の関係者たちの所感などを披露すると共に、自らの見解やハワイにおける人的交流の実績なども紹介、更には戦前戦後の国際交流の歴史や、新たなスポーツ文化観にいたるまで行き届いた配慮も窺わせている。

従来、国内でもバスケットボール関係の書籍はかなり多く出版されてきているが、その多くは直接現場に絡むいわゆる“指導書”や“解説書”の類であり、こういった特異な視点からの考察はあまり例をみない。

バスケットボール関係者のみならず、一般の愛好者にとっても一読の価値ある見逃し難い労作となっているので紹介する。

著 者 二 杉 茂 氏

大阪生まれ、韓国京畿大学大学院体育学研究科博士課程修了

神戸学院大学大学院人間文化学研究科教授

天理大学バスケットボール部監督

発行日 2009年3月20日

発行所 ㈱ 晃洋書房 京都市右京区西院北矢掛町7番地

TEL: 075-312-0788

価 格 2,520円

以上



# UNDER GHQ

## 戦後混乱期のバスケットボール

[歴史部]

最近、大学バスケットを見始めた若い人にとっては、それほど驚くことではないかもしれないが、平成20年秋、日本体育大学が男女ともに関東学生リーグ2部降格となった。

特に男子については、昨今の低迷ぶりを見て「ここまでよく粘った。去年まで落ちなかったのが不思議だ」と思う人もいるだろう。

しかし、バスケットファン全体を俯瞰してみると、その意見は少数派になる。日体大男子が1部から陥落するのは初めてのことであり、ほんの一昔前にはインカレ4連覇も達成するほどの強豪だったからだ。長く大学バスケットを見ているファンにとって、日体大の2部降格は衝撃とも言える出来事なのである。

そこで気になるのが、関東学生リーグの歴史だ。いつ頃からリーグ戦が始まり、日体大は何年間1部の座を守っていたのか……その歴史をひもといてみると、重要な時期がある事実に行き当たる。その時期とは終戦直後、いわゆる“占領期”である。

今回は、戦後混乱期の学生バスケット界を振り返ってみたい。

関東大学バスケットボール連盟の発足は大正13年(1924)、実に80年以上も前のことになる。当時の名称は「全日本学生箒球連盟」。早稲田・立教・商大（現在の一橋大）という、わずか3校でのスタートだった。年々加盟校は増えていき、昭和8年(1933)に「関東大学箒球連合」と組織名を変更。その頃には1部6校・2部5校の形がほぼ定着するが、忌わしき戦争の余波を逃れることはできず、昭和18～20年(1943～45)は中止。東京大空襲では多くのバスケットコートが焼け落ちたという。軍に召集され、戦場に散った選手も少なくなかっただろう。

昭和20年(1945)の終戦から4ヶ月後には早慶戦が行われ、それとほぼ同時に戦前の「大日本体育会箒球部会」が「日本箒球協会」として再発足。翌昭和21年には学連の役員による話し合いの場がもたれ、4月をメドに各大学が選手の頭数を揃えることで合意し、リーグ戦復活が決定した。

しかし、焼け野原からの再出発であった終戦直後、すべて整った状態でバスケットができないのは当然のことである。中止の直前まで5連覇を果たしていた立教は、人数が揃わず、昭和21年春のリーグ戦の参加を見送り、秋に2部から再スタートとなった。また、体育館が焼失した早稲田は屋外コートでの練習を余儀なくされた。ただでさえ食糧も物資も不足する中で、そんな状況ではバスケットから離れる者が少なくないのも致し方ない。試合や練習に向かう際の電車賃もままならないのである。

それでもリーグ戦が行われたのは、残った者たちのバスケットにかける熱意があればこそだった。観客も決して少なくはなかったという。苦しいからこそ何かを渴望し、そのエネルギーがバスケットに向けられたのであろう。

余談だが、この昭和21年に早稲田バスケット部に入部した中井寛一が、退部から数か月後の翌22年夏に銀幕デビューを飾っている。俳優・中井貴一の実父、佐田啓二（故人）である。

リーグ戦の戦績を見ても、当時の状況を反映した結果となっている。昭和21年度は春秋ともに東京大が、昭和22年(1947)度はやはり春秋ともに文理大（東京教育大―筑波大）が制している。これは、他の大学が学徒出陣で学生の召集があったことが原因の一つとなっている。部員の多くを戦死や未復員で欠き、選手層が薄くなっていたというわけである。昭和21年春不参加の立教については、戦前の部員に韓国人が多く、彼らが祖国に帰ってしまったのが原因ということだ。

その後台頭してくるのが慶應義塾大であるが、それにもやはり占領期ならではの理由がある。慶應を指導していたのは進駐軍の3人の軍人、つまりバスケの本場のアメリカ人がコーチについていたのだ。新宿に進駐軍の宿舎があり、程近い新宿高校の体育館で練習していた慶應が、そこで日系二世の「宮本」という人物を介して知り合ったのがきっかけだという。その教え方は、選手にあれこれと注文をつけることはせず、手本を見せてそれをひたすら反復させるというものだった。

彼らは昭和24年(1949)の秋に帰国するが、宮本が代わりのアメリカ人コーチ・ハリスを紹介し、引き続き慶應の指揮はアメリカ人が執ることになる。「ケンタッキーの名将エイドルフ・ラップの弟子」と名乗るハリスは、コート上の5人全員が動き回るラップの戦術を選手に叩き込んだ。ハリスもまた、反復練習で徹底的に体に染み込ませるという教え方であり、その厳しさは「足の位置が10cm違う」と言って怒ったというエピソードでもわかる。3線速攻やハリーバックといった現代バスケットでは常識とされる概念も、元はハリスが慶應に持ち込んだものだという。

進駐軍の軍人が叩き込んだ基礎技術にハリスの戦術が加わり、慶應は昭和25年(1950)、26年度ともにリーグ戦を10戦全勝で制した。26年度には全日本総合選手権（オールジャパン）の頂点にも立っている。45年ぶりのインカレ優勝で話題となったのは4年前になるが、その45年前までは、慶應は実業団も含めて国内屈指の強豪であり、日本バスケットの礎を築いた先駆者でもあったのだ。

昭和25年(1950)には、上述の籠球連盟とは別組織の青山学院や学習院が中心となった「関東学生バスケットボール新連盟」も発足。統合や、さらなる分裂を経て、昭和57年(1982)年に「関東男子学生バスケットボール連盟」に完全一本化されて今に至っている（現在の名称は関東大学バスケットボール連盟）。冒頭に挙げた日体大は当初この「新連盟」に属し、昭和41年(1966)の旧連盟との合併以来、関東大学連盟1部の地位を守り続けてきた。42年の時を経て、初めて2部に降格するわけである。

JBLやbjに進む選手は、そのほとんどが国内の大学でプレイしている。戦後の混乱期に大学バスケットが復活していなかったとしたら、現在の勢力図が一体どうなっていたのか、想像もつかない。当時の関係者の尽力に、われわれは心から感謝しなければならないだろう。

占領期は、日本のバスケットボールを語る上で決して忘れてはならない時期なのである。

#### [参考資料]

関東大学バスケットボール連盟80年史（関東大学バスケットボール部80年史編集委員会）  
50 years（慶應義塾バスケットボール三田会）  
RDR60（早稲田大学RDR倶楽部）

# 第1回東アジアバスケットボール選手権大会

## 兼 第25回FIBAアジア男子選手権大会東アジア地区予選

[編集部]

今年8月、中国・天津で行われる第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会の東アジア地区予選となる首題の大会が、6月10日（水）から6月14日（日）の予定でパークアリーナ小牧において開催されることになった。

今回からFIBAアジア男子選手権大会については出場枠が決められ、アジアの5地区で予選大会を行い、各予選の上位2チームと開催国、前年に開催されたスタンコビッチカップの上位5チーム、合計16チームしか参加できなくなった。

したがって日本は、東アジア予選で上位2チーム以内に入らなければアジア選手権に出場できないことになる。今回はアジア選手権の開催国が中国なので、東アジアにおいて中国を除いて2位になればよいが、今後はアジア選手権大会についてもその出場が厳しくなってくると思われる。

なおアジア5地区は、東アジア、西アジア、東南アジア、中央アジア、湾岸地区となっている。

### 第1回東アジアバスケットボール選手権大会の概要

**主 催** 東アジアバスケットボール協会  
**主 管** 東アジアバスケットボール協会、日本バスケットボール協会、愛知バスケットボール協会  
**会 場** パークアリーナ小牧 愛知県小牧市  
**参加チーム** 日本、中国、韓国、チャイニーズタイペイ、香港チャイナ、モンゴル  
**競技方法**

#### 予選ラウンド

組み合わせ抽選により、6チームを3チームずつの2グループ（グループA、グループB）に分け、各グループで総当たりのリーグ戦を行う。  
各グループの上位2チーム（合計4チーム）が決勝トーナメントに進み、3位が東アジアの5、6位決定戦に進む。

#### 決勝トーナメント

予選ラウンドの結果により、A1位対B2位、B1位対A2位で準決勝を行う。勝者2チームが決勝に進み、敗者2チームが3・4位決定戦に進む。

#### 予選ラウンド組み合わせ

|       |            |     |      |
|-------|------------|-----|------|
| グループA | 香港チャイナ     | 中 国 | 韓 国  |
| グループB | チャイニーズタイペイ | 日 本 | モンゴル |

## 予選ラウンド競技日程

| 日 程     | 開始時間 15:30     | 開始時間 18:30          |
|---------|----------------|---------------------|
| 6/10(水) | 香港・チャイナ VS 中 国 | チャイニーズ・タイペイ VS 日 本  |
| 6/11(木) | 中 国 VS 韓 国     | 日 本 VS モンゴル         |
| 6/12(金) | 韓 国 VS 香港・チャイナ | モンゴル VS チャイニーズ・タイペイ |

## 第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会出場の仕組み

以下の16チームが出場できる。

- 1) 開催国 中国
- 2) 2008年FIBAアジアスタンコビッチカップ上位5チーム  
ヨルダン/カザフスタン/クウェート/カタール/インド
- 3) FIBAアジアを構成する5地区の予選の上位2チーム (計10チーム)

## 第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会開催概要

開催期日 平成21年8月6日から8月16日

開催地 中国・天津

参加チーム 上記16チーム

### 競技方法

- 予選ラウンド 出場16チームを4チームずつの4グループに分け、1回戦総当たりのリーグ戦を行い、各グループの1位から4位を決定する。  
各グループの上位2チーム合計8チームが上位2次ラウンドへ進む。
- 上位2次ラウンド 8チームを2つのグループに分け、1回戦総当たりのリーグ戦を行い各グループの1位から4位を決定し、各グループの上位2チームが決勝トーナメントへ進む。
- 決勝トーナメント 上位2次ラウンドの各グループ上位2チームが、たすきがけ方式で準決勝を行い勝者が決勝に進出、敗者同士は3位決定戦を行う。

以上の結果、FIBAアジア男子選手権を勝ち抜いた上位3チームが、来年8月にトルコで開催される第16回FIBAバスケットボール世界選手権大会に出場する。

この世界選手権大会への参加国は24チームとなっており、開催国、前回オリンピック優勝国のアメリカとFIBAを構成する5つのゾーン（アジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア）の予選を勝ち抜いたチームが参加できる。

最近のアジア選手権大会の結果から見ると、男子の場合アジアで3位以内に入ることは相当厳しいと云わざるを得ないが、逆にまったく手が届かない状況でもない。世界選手権大会出場は日本バスケット界の努力次第ではないだろうか。



## 男子日本代表候補選手の強化合宿続く

[編集部]

日本バスケットボール協会は、日本の男子チーム強化について「新たなる再出発」を基本とする強化本部方針のもとに、男子の強化目標を次のように決定し実行に移している。

—— 強化目標 ——

「オリンピック出場を果たすこと」

「強い日本代表チームを作る」ために積極的な活動に取り組む

以上の目標に向けて、男子代表チームのヘッドコーチを専任制にし、アメリカからディビッド A. ホップス氏を招聘、4月から代表候補選手を招集して強化合宿に入った。この合宿は6月に愛知県小牧市で開催される東アジア選手権大会と、8月に中国で開催されるFIBAアジア選手権大会を当面の目標として、代表候補選手22名がナショナルトレーニングセンターにおいて下記の日程で合宿に入り連日猛練習に励んでいる。

ここにアメリカから招聘したヘッドコーチのディビッド A. ホップス氏を紹介するとともに、合宿途中のコメントについてもお知らせすることとした。

### ディビッド A. ホップス氏 プロフィール



1949年アメリカ生まれ、1972年ヴァージニア コモンウェルス大学卒業

|           |                  |              |
|-----------|------------------|--------------|
| 1976-1979 | リーディビス高校         | ヘッドコーチ       |
| 1979-1985 | ヴァージニア コモンウェルス大学 | アシスタントコーチ    |
| 1985-1992 | アラバマ大学           | アシスタントコーチ    |
| 1992-1998 | アラバマ大学           | ヘッドコーチ       |
| 2000-2002 | ケンタッキー大学         | アシスタントコーチ    |
| 2002-2007 | ケンタッキー大学         | アソシエイトヘッドコーチ |
| 2008-     | シャーロット・ボブキャッツ    | スカウト         |

### [日本代表チーム]

#### 主なスタッフ

|              | 氏 名           | 所 属      |
|--------------|---------------|----------|
| スーパーバイザー     | 倉石 平          | 日本協会理事   |
| ヘッドコーチ       | ディビッド A. ホップス | 日本協会     |
| アシスタントコーチ    | 後藤 正規         | 日本協会     |
| 通訳／アシスタントコーチ | 清永 貴彦         | レラカムイ北海道 |
| 総括マネージャー     | 川島 健太         | JBL      |

代表候補選手

| No. | 氏 名   | P  | 身長  | 体重  | 年齢 | 所 属          |
|-----|-------|----|-----|-----|----|--------------|
| 1   | 折茂 武彦 | SG | 190 | 77  | 38 | レラカムイ北海道     |
| 2   | 菅 裕一  | SG | 187 | 74  | 31 | 日立サンロッカーズ    |
| 3   | 竹田 謙  | SF | 188 | 80  | 30 | リンク栃木プレックス   |
| 4   | 伊藤 俊亮 | C  | 204 | 110 | 29 | リンク栃木プレックス   |
| 5   | 五十嵐 圭 | G  | 180 | 68  | 28 | 日立サンロッカーズ    |
| 6   | 網野 友雄 | SF | 196 | 87  | 28 | アイシンシーホース    |
| 7   | 田臥 勇太 | G  | 173 | 75  | 28 | リンク栃木プレックス   |
| 8   | 桑原 義典 | PF | 200 | 96  | 28 | 東芝プレイブサンダース  |
| 9   | 朝山 正悟 | SG | 192 | 88  | 27 | レラカムイ北海道     |
| 10  | 山田 大治 | PF | 200 | 105 | 27 | レラカムイ北海道     |
| 11  | 柏木 真介 | G  | 183 | 80  | 27 | アイシンシーホース    |
| 12  | 桜井 良太 | G  | 194 | 75  | 26 | レラカムイ北海道     |
| 13  | 佐藤 託矢 | PF | 198 | 105 | 25 | 三菱電機グレイモンズ   |
| 14  | 大宮 宏正 | PF | 197 | 92  | 25 | リンク栃木プレックス   |
| 15  | 石崎 巧  | G  | 188 | 85  | 24 | 東芝プレイブサンダース  |
| 16  | 菊地 祥平 | SG | 190 | 90  | 24 | 東芝プレイブサンダース  |
| 17  | 酒井 泰滋 | SF | 190 | 88  | 24 | 日立サンロッカーズ    |
| 18  | 岡田 優介 | SG | 185 | 78  | 24 | トヨタ自動車アルバルク  |
| 19  | 濱田 卓実 | SF | 192 | 80  | 24 | パナソニックトライアンズ |
| 20  | 竹内 公輔 | PF | 205 | 98  | 24 | アイシンシーホース    |
| 21  | 竹内 譲次 | SF | 205 | 98  | 24 | 日立サンロッカーズ    |
| 22  | 川村 卓也 | SG | 193 | 83  | 22 | リンク栃木プレックス   |
| 平 均 |       |    | 192 | 87  | 27 |              |

Pーポジション

Gーガード

PGーポイントガード

SGーシューティングガード

Fーフォワード

SFースモールフォワード

PFーパワーフォワード

Cーセンター

強化合宿の日程

| 期 間             | 合宿・遠征・大会 | 場 所             |
|-----------------|----------|-----------------|
| 4/9(木)～4/12(日)  | 第1次強化合宿  | ナショナルトレーニングセンター |
| 4/15(水)～4/19(日) | 第2次強化合宿  | ナショナルトレーニングセンター |
| 4/22(水)～4/26(日) | 第3次強化合宿  | ナショナルトレーニングセンター |
| 4/29(水)～5/3(日)  | 第4次強化合宿  | ナショナルトレーニングセンター |
| 5/6(水)～5/10(日)  | 第5次強化合宿  | ナショナルトレーニングセンター |
| 5/13(水)～5/17(日) | 第6次強化合宿  | ナショナルトレーニングセンター |
| 5/28(木)～6/7(日)  | 第7次強化合宿  | ナショナルトレーニングセンター |

|                 |                                             |                 |
|-----------------|---------------------------------------------|-----------------|
| 6/10(月)～6/14(日) | 第1回東アジア選手権大会兼<br>第25回FIBAアジア選手<br>権大会東アジア予選 | 愛知県パークアリーナ小牧    |
| 6/18(木)～6/21(日) | 第8次強化合宿                                     | ナショナルトレーニングセンター |
| 6/24(水)～6/28(日) | 第9次強化合宿                                     | ナショナルトレーニングセンター |
| 7/1(水)～7/5(日)   | 第10次強化合宿                                    | ナショナルトレーニングセンター |
| 7/8(水)～7/16(木)  | 第11次強化合宿                                    | ナショナルトレーニングセンター |
| 7/17(金)～7/27(日) | 海外試合                                        | 調整中             |
| 7/28(火)～8/3(月)  | 第12次強化合宿                                    | ナショナルトレーニングセンター |
| 8/4(火)～8/17(月)  | FIBAアジア選手権大会                                | 中国・天津           |

ディビッドヘッドコーチは、第4次の強化合宿を終えた段階でおよそ次のようにコメントしている。

「選手は一生懸命努力し練習についてきてくれていますが、チームとしてはまだまだやるべきことが多くあります。選手それぞれに事情があって全員が出席できないことがあり、そのためプロセスが少し遅れていて、私が思い描いているようなスピードでは進んでいません。しかし6月に開催される東アジア選手権までに調整することは可能だと思います。別メニューで調整していた選手たちも第4次合宿からは練習に参加し始めており、今は全員で同じページにいるという環境作りに集中しています。

私が掲げる強化理論の中に“スキル・ハードワーカー・チームプレイヤー”という3つの条件があります。一生懸命プレイができるか（ハードワーカー）、技術として何ができるか（スキル）、チームにフィットできるか（チームプレイヤー）ですが、各選手はすでにこの3条件をクリアしています。

最終的な日本代表選考には、その中でベストな選手たちを選ばなくてはなりません。もちろん最後まで残れなかった選手がスキル・ハードワーカー・チームプレイヤーのいずれかが欠けていたというわけではありません。繰り返しになりますが3条件を備えた選手の中からさらにベストな選手を絞り込みます。現在、選手たちはそれに向かって努力し頑張っています。

6月開催の東アジア選手権で上位2チームに入らなければ次はなく、先の道が断たれてしまいます。東アジア地区予選でコンディションをピークにもっていくために日本代表チームはトレーニングを続けています。東アジア地区とはいえ、強豪チームが揃い厳しい戦いとなりますが、目標に向かってしっかりと調整を進めて大会に臨みたいと思っております。地元日本の小牧での開催ということで、ファンの皆さんの応援が大きな力になりますので、応援もよろしくお願いします。」

世界的な新インフルエンザ流行のため、5月に予定していた海外へ遠征しての強化試合は取りやめて、日本へ外国チームを招聘して強化試合を行うことに変更された。6月の東アジア大会を考慮すると5月中に実現しなければならず、強化本部は多忙を極めているようである。

また、若年のうちから日本代表としてのスキルを持たせるべく、今後はU-16の選手から日本代表として積極的に強化を図っていくことが強化本部で確認されている。

## 女子日本代表チーム強化合宿開始

[編集部]

平成21年度女子日本代表候補選手が当初の24名から16名に絞り込まれて、去る4月1日から東京ナショナルトレーニングセンターで第2次強化合宿に入った。次に開催される、第23回FIBAアジア女子選手権大会へ向けて数次の合宿練習と、オーストラリア強化遠征を行う予定であったが、外国で新インフルエンザが流行しているため中止となっている。

新聞等でご承知のとおり、女子日本代表チームのヘッドコーチには、ベテランの中川文一氏が専任ヘッドコーチとして就任し、強化に取り組んでいる。

今回のアジア選手権は、来年開催される世界選手権のアジア予選を兼ねての大会で、新しい代表チームの活躍が期待される。

### 主なスタッフ

|           | 氏 名   | 所 属           |
|-----------|-------|---------------|
| スーパーバイザー  | 荒 順一  | 日本協会理事        |
| ヘッドコーチ    | 中川 文一 | 日本協会          |
| アシスタントコーチ | 加藤 雅規 | アイシン・エイダブリュ   |
| アシスタントコーチ | 後藤 敏博 | トヨタ自動車アンテロープス |
| 総括        | 吉田 良子 | 女子日本リーグ機構     |

### 選 手

| No. | 氏 名    | P  | 身長  | 体重 | 年齢 | 所 属         |
|-----|--------|----|-----|----|----|-------------|
| 1   | 小磯 典子  | C  | 183 | 78 | 36 | アイシン・エイダブリュ |
| 2   | 矢代 直美  | C  | 182 | 70 | 31 | 日本航空        |
| 3   | 磯山 絵美  | SG | 174 | 64 | 27 | 日立ハイテク      |
| 4   | 小畑 亜章子 | PG | 165 | 56 | 27 | デンソー        |
| 5   | 大神 雄子  | PG | 170 | 63 | 26 | JOMO        |
| 6   | 畑 恵里子  | PF | 181 | 75 | 26 | 富士通         |
| 7   | 櫻田 佳恵  | SG | 170 | 63 | 24 | トヨタ自動車      |
| 8   | 池住 美穂  | SG | 176 | 65 | 23 | シャンソン化粧品    |
| 9   | 内海 亮子  | SG | 175 | 68 | 23 | JOMO        |
| 10  | 鈴木 あゆみ | PF | 180 | 70 | 23 | 富士通         |
| 11  | 諏訪 裕美  | C  | 183 | 84 | 23 | JOMO        |
| 12  | 鈴木 一実  | SF | 177 | 77 | 22 | トヨタ自動車      |
| 13  | 吉田 亜沙美 | PG | 165 | 64 | 21 | JOMO        |
| 14  | 高橋 礼華  | SF | 177 | 65 | 20 | 日本航空        |
| 15  | 高田 真希  | PF | 183 | 74 | 19 | デンソー        |
| 16  | 間宮 佑圭  | PF | 183 | 73 | 18 | 東京成徳大学高校3年  |
| 平 均 |        |    | 177 | 69 | 25 |             |

Pーポジション      PGーポイントガード      SGーシューティングガード  
SFースモールフォワード      PFーパワーフォワード      Cーセンター

## 中川文一ヘッドコーチのコメント



今のところ怪我人が続出して困惑している。国際的に強くなるためには、それなりにパワーも必要になる。世界の高さに対抗するには、ハードなディフェンスと5人で繰り広げる速いオフェンスが求められ、そのためにはハードトレーニングとパワーUPは必須であり、もう少し練習量を増やしていきたいと思っている。

各選手がもっと技術とパワーを身につけないと国際的には通用しない。例えば日本のセンタープレイヤーは183cm程度だが、国際的に見ればこの程度の身長ではガードのポジションに居る。センターでいえば殆どの国が身長190cm以上であり、ゴール近くで日本のセンターが対抗しようとしても無理がある。そこで日本としては、どのプレイヤーでも3Pシュートが打てて、オールラウンドで速いプレイができるようにならなければならない。

日本代表選手であるからには、更なる技術を身につけることや筋力トレーニングなど、やらなければならないことが山積している。

短い期間だが、なんとか工夫してもう少し細かい点にまで及ぶ練習も行っていきたい。アジア選手権大会の前にオーストラリアに遠征するが、ここで高さに対するプレイが試されるだろう。日本代表選手で180cm台が何人かいるが、これらの選手は自分のチームへ戻ると、ポジションとしてはセンタープレイが主となり、オールラウンドプレイには程遠い。日本が世界に挑戦するには、根本的にプレイスタイルを変えることが望まれるが、チームの事情もあって簡単には解決しそうにない。

アジアで言えば当面のライバルである韓国が問題だろう。技術的レベルも上がっているようだし、オフェンス力（シュート力）にはかなりのものがありそう。ディフェンスについては日本の方が上とみているが、オフェンスについては韓国が勝っているかもしれない。

## チャイニーズタイペイが女子アジア選手権大会を返上

6月にチャイニーズタイペイで開催される予定であった第23回FIBAアジア女子選手権大会は、チャイニーズタイペイが開催を返上したため、アジアにおいて開催場所、開催日程の調整がついていない。

女子については中東での開催がないため、東アジア地区における開催となるが、この地区において開催に立候補する国は未定。来年9月に開催される世界選手権大会の予選となるアジア選手権大会の期限は、その6ヶ月前の来年3月までとなる。

このため女子代表チームは一旦解散して、アジア選手権大会の場所・日程を見ながら再度代表チームを組むことも検討している。



**molten**<sup>®</sup>  
For the real game



# *For the real game*

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

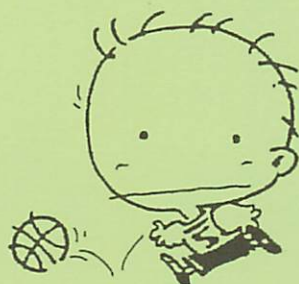
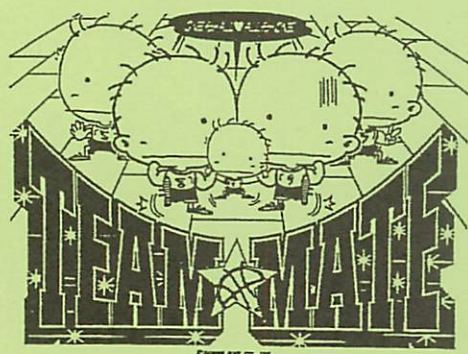
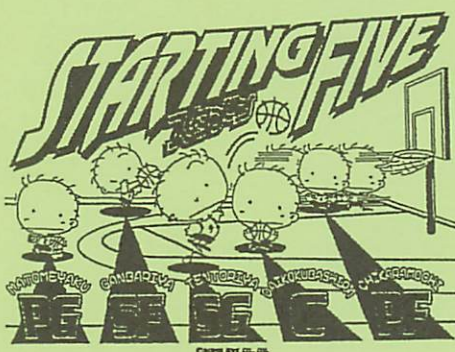
BGL7  
GL7 国際公認球 検定球  
貼り・天然皮革、7号球



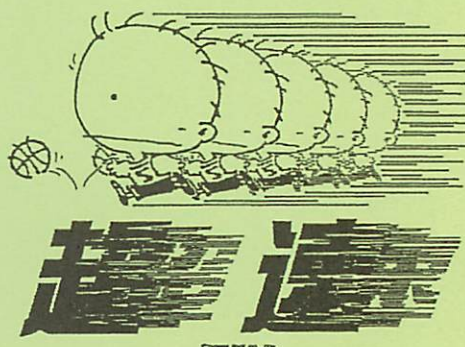
[www.molten.co.jp](http://www.molten.co.jp)

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

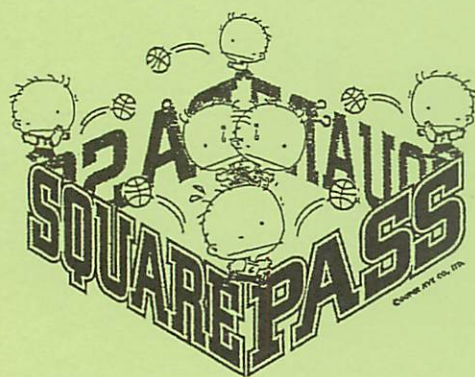




DUPER®



表現の自由人。



DUPER®

デューパーファイブ株式会社  
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5  
TEL . (03)3632-7045 (代表)  
FAX . (03)3632-8327

URL : <http://www.duper.co.jp>

E-mail: [info@duper.co.jp](mailto:info@duper.co.jp)